

Oracle® Solaris 10のセキュリティーガイド ドライン

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
1 Oracle Solaris 10のセキュリティーガイドライン	9
Oracle Solaris 10のシステム強化に関するリファレンス	9
Oracle Solaris 10のセキュリティーに関するその他のリファレンス	10

はじめに

このガイドには、Oracle Solaris オペレーティングシステム (Oracle Solaris OS) のセキュリティガイドラインの参照先および説明が記載されています。システム強化に関するリファレンスには、Oracle Solaris 10 システムの強化方法および Oracle Solaris のセキュリティ機能を使ってデータやアプリケーションを保護する方法が説明されています。サイトのセキュリティポリシーに合わせてこれらのリファレンスの推奨事項を調整することができます。

さらに、このガイドには Oracle Solaris のセキュリティに関する背景情報や、一般的な実装方法をガイドするホワイトペーパーの参照先も記載されています。

対象読者

Oracle Solaris 10 のセキュリティガイドラインは、次の作業を行うセキュリティ管理者およびその他の管理者を対象としています。

- セキュリティ要件の分析
- ソフトウェアへのセキュリティポリシーの実装
- Oracle Solaris OS のインストールと設定
- システムおよびネットワークセキュリティの保守

このガイドを使用するには、UNIX 管理の一般知識、ソフトウェアセキュリティの適切な基盤、およびサイトのセキュリティポリシーの知識が必要です。

関連する Sun 以外の Web サイト情報

このドキュメントでは、Sun 以外の URL を挙げ、関連する補足情報を示す場合があります。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子的なサポートを利用することができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

Oracle Solaris OS に含まれるシェルで使用する、UNIX のデフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを次に示します。コマンド例に示されるデフォルトのシステムプロンプトは、Oracle Solaris のリリースによって異なります。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

Oracle Solaris 10 のセキュリティーガイドライン

Oracle Solaris 10 は、実証済みのセキュリティー機能を提供する、堅牢かつ最高級のエンタープライズオペレーティングシステムです。Oracle Solaris 10 では、ユーザーによるファイルアクセス、システムデータベースの保護、およびシステムリソースの使用の方法を制御する、洗練されたネットワーク規模のセキュリティーシステムを使って、あらゆる層のセキュリティーニーズに対応します。従来のオペレーティングシステムにはセキュリティーに関する固有の脆弱性が含まれていることがありますが、Oracle Solaris 10 ではその柔軟性によって、エンタープライズサーバーからデスクトップクライアントに至るまで、さまざまなセキュリティー目標を満たすことができます。

Oracle Solaris 10 のシステム強化に関するリファレンス

次の2つのドキュメントには、Oracle Solaris の強化方法、そのセキュリティー機能を使って、アプリケーションやユーザーをシステムに追加する際にシステムが安全に動作するように設定する方法、および特定のセキュリティー機能を使ってネットワークベースのアプリケーションを保護する方法が記載されています。各ドキュメントのタイトルと簡単な説明を示します。

- [CIS Solaris 10 Benchmark v5.0.0 \(http://benchmarks.cisecurity.org/en-us/?route=downloads.show.single.solaris10.500\)](http://benchmarks.cisecurity.org/en-us/?route=downloads.show.single.solaris10.500)、2010年7月9日。

このドキュメントの別の名前は『Security Configuration Benchmark for Solaris 10 11/06 through 10/09』です。このベンチマークは、多くの貢献者による7年にわたる作業の成果です。それらの貢献者には、Sun Microsystems、Defense Information Systems Agency (DISA)、Center for Internet Security (CIS)、National Institute of Standards and Technology (NIST)、National Security Agency (NSA)、および多数の個々の企業、学術機関、個人が含まれます。このベンチマークによって、Sun、CIS、NSA、およびDISAの同意を得た1組の基本的な強化ガイドラインが確立されます。

- [An Overview of Solaris 10 Operating System Security Controls \(http://www.nsa.gov/ia/_files/os/sunsol_10/s10-cis-appendix-v1.1.pdf\)](http://www.nsa.gov/ia/_files/os/sunsol_10/s10-cis-appendix-v1.1.pdf)、Glenn Brunette 著、2007 年 9 月、v1.0

『Security Configuration Benchmark for Solaris 10 11/06 through 10/09』のこの付録は、システム強化およびセキュリティー設定の検証の分野に入らない、Oracle Solaris 10 のセキュリティー制御に重点が置かれています。この付録には、Oracle Solaris 10 のすべてのセキュリティー機能の概要が記載され、可能な場合はそれぞれの推奨事項も示されています。

Oracle Solaris 10 のセキュリティーに関するその他のリファレンス

次のガイドと記事は、前の節のシステム強化のガイドラインを補足するものです。

- 『Solaris のシステム管理 (セキュリティーサービス)』

このセキュリティーガイドは、Oracle が Oracle Solaris 10 管理者のために発行したものです。このガイドには、Oracle Solaris 10 OS のセキュリティー機能、およびシステム構成時のそれらの使用方法が説明されています。『Security Configuration Benchmark for Solaris 10 11/06 through 10/09』とは異なり、このガイドはシステム強化やベストプラクティスに関するドキュメントとして書かれたものではありません。

- 『Solaris 10 Security Essentials』, Sun エンジニア、2009 年。ISBN 978-0137012336

この一般書では、Solaris エンジニアおよびテクニカルライターが Solaris に関する 12 のセキュリティー技術を例をもって説明しています。『Security Configuration Benchmark for Solaris 10 11/06 through 10/09』とは異なり、このガイドはシステム強化やベストプラクティスに関するドキュメントとして書かれたものではありません。

- [Using Oracle® Solaris 10 to Overcome Security Challenges \(http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris/solaris-10-security-167783.pdf\)](http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris/solaris-10-security-167783.pdf)、2010 年 8 月。

この Oracle のホワイトペーパーは、包括的なシステムセキュリティー機能を必要とする組織を対象としています。コンピュータセキュリティーの効果的かつ効率的なソリューションを必要とする IT 部門は、Oracle Solaris 10 固有の強力なセキュリティー機能を使って、潜在的な脅威から企業を保護し、企業および法的基準に準拠し、セキュリティーへの取り組みに後れを取らないようにすることができます。このホワイトペーパーでは、Oracle Solaris のセキュリティー機能の概要を説明しています。これは強化やベストプラクティスに関するドキュメントとして書かれたものではありません。

- [Hardening Oracle Database with Oracle Solaris Security Technologies \(http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris/solaris-security-hardening-db-167784.pdf\)](http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris/solaris-security-hardening-db-167784.pdf)、Glenn Faden および Christoph Schuba 共著、2010 年 8 月。

この Oracle のホワイトペーパーでは、ネットワークに接続するサービスを内部および外部の脅威から保護するために、Oracle Solaris OS 製品のセキュリティー機能を使用してそれらのサービスを制限する方法を説明し、実例を示しています。テクノロジーの概念とその実装は、実行中の例として Solaris 10 10/09 リリースで実行されている Oracle Database Server 11g リリース 2 を使って実践的な方法で紹介されています。

